

調査結果の概要

《ご家族アンケート》

1. 生活自立状況

～ “基本的な生活管理” “時間管理” “規則・規律の順守” は “できる” が “金銭管理” “他人との意思疎通” “健康管理” の自立性に不安が大きい～

「ご本人の生活状況をお知らせ下さい」の質問に対し、「完全に」と「ほぼ」を足した『自立度』では、「起床、食事、就寝など基本生活の時間管理」(85.6%)、「出勤、始業時間等社会生活上の時間管理」(85.6%)、「食事、身だしなみ、入浴、排せつなどの基本的な生活管理」(82.1%)、「職場や共同生活の規則や規律を守ることができる」(79.6%)が8割程度またはそれ以上となっている。一方で、自立度が低いのは、「自分のお金の管理」(44.4%)であり、半数以上が“介助を必要とする”と回答している。これに次いでいるのが「家族以外の人に自分の気持ちや希望を伝えたり、相手の気持ちや言いたいことを理解することが出来る」(51.7%)、「体や心の健康を管理する、体調が悪い時に、病院に行ったり決められたように薬を飲む」(55.6%)である。

グループホームへの入居を現在検討している家族（以降「入居現在検討者」）の評価が、全体平均と比べて特に低いのは、「家族に気持ちを伝えたり、言いたいことを理解する」(-22.1%)、「家族以外の人に気持ちを伝えたり、言いたいことを理解する」(-22.3%)である。

2. 家族にとっての生活支援負担度

～ グループホーム入居現在検討者の半数強が“負担あり”と回答 ～

家族にとっての生活支援の負担度を見ると、「かなり負担がある」(3.4%)、「やや負担がある」(32.0%)を合わせ“負担がある”と回答している割合は35.4%である。

「入居現在検討者」では“負担度”が52.1%と半数を超えている。

3. 負担に思うこと

～ 金銭管理、生活管理と並んで意思疎通の難しさに関連する項目が上位にあがっている～

「負担に思うこと」(自由回答、回答者数 317 人)を複数回答式にキーワード分類した結果では、1位「意思伝達、コミュニケーション」(66人)、2位「お金の管理」(63人)、3位「日常的な生活の管理(入浴、衛生管理など)」(46人)が上位にあがっている。また、8位「情緒不安定、パニック」(32人)、11位「こだわりが強い」(21人)、12位「社会生活への参加や集団内での同調がむずかしい」(18人)などを含めた意思疎通の難しさと、金銭、時間、健康などの生活管理の困難が結びついている例も自由回答の中に多く見られる。

4. 本人の生活自立に対する希望

～ 「家族支援に負担がある」層の4割強はグループホームでの生活、又は外部サービスを受けながらの単身生活を希望している ～

「本人の生活自立に向けての希望」は、全体では「在宅で親族の支援を受けながらの生活」(44.4%)

が最も多く、「グループホームなど支援を受けながらの共同生活」(24.7%)がこれに続いている。

これを家族負担度別に見ると、「負担あり」層は、「グループホームなど支援を受けながらの共同生活」(34.3%)、「在宅で外部サービスを受けながら親族と同居」(17.1%)と回答する割合が51.4%と高い。また、「グループホームなど支援を受けながらの共同生活」(34.3%)と「外部サービスを受けながら単身生活」(7.5%)を合わせた“在宅外での自立”を希望する割合が41.8%と「負担なし」層に比べて高い。

グループホームの検討度別に見ると、「現在入居者」では8割以上が継続を希望しており、「入居現在検討者」では58.0%と過半数以上がグループホームでの生活を希望している。

5. 将来の本人について不安に思うこと

～ “親の高齢化などで家族支援ができなくなった時”の不安が49.9%と高い。具体的には“金銭管理に関する不安”が最も多い～

自由回答記入者(647人)中、49.9%にあたる323人が「親が高齢化したりいなくなった時、1人になった時」の不安を抱えている。具体的には「金銭面、お金の管理」(123人、19.0%)が最も多くあがっているが、「グループホームや外部サービスを受けることへの不安」(きちんと支援してもらえるか、入居できるか、本人が望むか、共同生活ができるかなど)への不安も83人、12.8%と多く見られる。

6. 親の高齢化など家族の支援が困難になったときに望む支援

～ グループホーム入居希望率は46.8%。「外部サービスを受けながら単身生活」を合わせると約6割が在宅以外での支援を希望～

「親の高齢化など、家庭の事情で経済的・生活面で支援が困難になった時に望む支援」に対しては、「グループホームなど支援を受けながらの共同生活」(46.8%)が最も多く、「外部サービスを受けながら単身生活」(13.2%)を合わせると在宅以外での支援を望む割合が60.0%を占めている。

家族負担度別に見ると、「負担あり」層のグループホーム希望率は56.6%と半数を超えている。また、「負担なし」層でも、グループホーム入所希望率は41.5%と「在宅で外部サービスを受けながら親族と同居」(31.9%)を上回っている。

7. 本人に共同生活や入所を望まない理由

～ 「本人が望まない」「共同生活が難しい」が主な要因。負担がある人やグループホーム現在検討者が“望まない”理由には「経済的負担」「グループホームをよく知らない」「施設入居への不安」が強い～

「ご本人に共同生活や施設入所を望まない理由」に対する回答として上位にあがるのは、1位「本人が望まないと思う」(50.2%)、2位「他人との共同生活が難しいと思う」(27.8%)、3位「グループホーム・施設のことをよく知らない」(23.8%)である。

「入居現在検討者」は、「入居準備費や入居中費用(家賃や食費)などが高いと思う」(31.6%)、「施設に入居させるのは不安」(42.1%)、「グループホーム・施設のことをよく知らない」(36.8%)、「他人との共同生活が難しいと思う」(38.8%)をあげる割合が全体平均に比べて高い。

8. 本人に共同生活や入所を望む理由

～ 「共同生活が安心」「日常的に専門的なサポート」など『安心感』が上位にあがる ～

「ご本人に共同生活や施設入所を望む理由」の上位にあがるのは、「1人暮らしより共同生活の方が安心」(70.1%)、「日常的に専門的なサポートが受けられる」(59.8%)、「将来は在宅でサポートできる親族がいない」(40.2%)である。

グループホーム入居検討状況別に見ると、「現在入居者」は、「1人暮らしより生活費が安い」(22.9%)、「家族に負担がかからない」(25.3%)、「入居現在検討者」は「日常的に専門的なサポートが受けられる」(73.5%)をあげる割合が、「将来検討者」は「1人暮らしより共同生活の方が安心」(73.0%)をあげる割合が他層に比べて高い。

9. グループホームの認知と入居経験

～ グループホームについて「概要は知っているが具体的に知らない」人が4割強と最も多い ～

グループホームの認知・理解度を見ると、「現在入居中」が9.1%(93人)、「具体的な内容について知っている(未入居)」(14.5%)、「どういう施設かは知っているが、具体的な施設については知らない」(43.1%)、「グループホームという名前を聞いたことがある程度」(22.2%)であり、“概要は知っているが具体的には知らない人”が4割を超えている。

10. グループホームへの入居経験や検討

～ 家族の支援に負担を感じる人の半数強は“入居経験または検討経験あり”～

グループホームの入居経験者は2.3%、入居検討経験率は35.4%である。

入居経験又は入居検討経験率を家族負担度別に見ると、「負担あり」層は52.5%と半数強にのぼっている。

グループホーム入居経験者が“現在住んでいない理由”では、「自宅の方が暮らしやすかった」が最も多く、「自宅や家族の家から遠かった」「障害の状況が共同生活に合わなかった」がこれに次いでいる。

11. グループホームへの入居を検討後、入居していない理由

～ 「入居現在検討者」が過去に検討後、入居していない理由は 1位「空きがない」が半数、「自宅や家族の家から遠い」が2割 ～

過去にグループホームへの入居を検討したが、今は入居していない理由の上位にあがるのは、1位「検討の結果、自宅生活の方がよい」(28.9%)、2位「空きがない」(22.2%)、3位「まだ先でよい、急がない」(19.1%)である。この中で、「現在入居検討者」では、「空きがない」(47.5%)、「自宅や家族の家から遠い」(21.8%)が上位にあがっている。

12. グループホームへの入居を検討したことがない理由

～ 「家族が支援可能」に次いで「どんなところが情報がなく検討しにくい」があがる ～

グループホームへの入居を検討したことがない理由としては、「家族が助けることで生活ができる」(69.8%)が圧倒的に高く、「どんなところが、情報がなく検討しにくい」(27.3%)がこれに続いてい

る。

「入居現在検討者」は、「どんなところか、情報がなく検討しにくい」(36.4%)、「他の人と一緒に住む事がむずかしい」(27.3%)、「空気がないから入れないと諦めている」(9.1%)をあげる割合が他層に比べて高い。

13. グループホームへの入居検討

～ 家族支援に負担を感じている層の2割弱が“いま、入居を検討中”～

今後、ご本人のグループホームへの入居を検討する予定について聞いた回答では「現在入居待ち」(1.7%)「希望に合うグループホームがあればいまでも検討する」(11.1%)と、「入居現在検討者」は12.8%。「今は検討しないが将来は検討する」(45.1%)、「わからない」(34.2%)が約8割であり、明確な意志決定ができない人が多い。

家族負担度別に見ると、「負担あり」層では、「現在具体的に検討して、入居を待っている」(2.4%)、「希望に合うグループホームがあれば、いまでも検討する」(16.2%)を合わせて約2割の人が具体的な入居意向を示している。

「将来入居を検討する」人の検討時期としては、「自分や家族が病気や高齢化などにより助けが難しくなった時」(74.2%)が最も多い。

14. グループホームに期待するサービス

～ 「調理」「お金の管理」「外出支援」を希望する割合が高い～

「グループホームで希望するサービス」として、「生活サービス費が追加されても全て介助や手助けをしてほしい」希望が高いのは「調理」(12.3%)、「お金の管理」(11.5%)、「病院など外出の手助け」(9.5%)、「基本生活サービス費の範囲内となるべく介助や見守りをしてほしい」も同様に「調理」(35.8%)、「お金の管理」(25.7%)、「病院など外出の手助け」(23.4%)である。一方で「入浴」は「入居者に任せてほしい」意向が40.2%と高い。

「現在入居検討者」の希望率（「生活サービス費が追加されても全て介助や手助けをしてほしい」＋「基本生活サービス費の範囲内となるべく介助や見守りをしてほしい」）を全体と比較すると、調理（全体との差19.1%）、お金の管理（同20.0%）、「外出の手助け」（同17.7%）へのニーズが特に高い。

15. グループホームで特にサポートしてほしいこと

～ 「金銭」「健康」「調理」と並んで、人間関係や精神面の見守りやサポートに関する項目が上位にあがる～

グループホームで特にサポートしてほしいこと（自由回答を複数回答方式にキーワード分類。回答者220人）の中では、「金銭管理」(38人)、「健康管理」(36人)「家事支援や身の周りの世話」(26人)と並んで「人間関係、コミュニケーションのサポート」(37人)、「気づきや見守り、声掛け」(21人)、「自主性や本人の意思の尊重」(20人)、「情緒安定、精神的サポート」(20人)、「傾聴、話をゆっくり聴く」(17人)など、精神的なサポートや自立性の尊重を求める項目が多くあがっている。

16. グループホームのスペース区分や交流についての希望

～ 寝室は専用、食事室と休憩室は共同使用を希望 ～

グループホーム内の専用スペースと共同使用の分かれ方に対する回答では、「寝室」は専有が 78.5% と非常に高く、「1人ずつ交代で使う共有スペース」希望は、「風呂」(49.8%)、「トイレ、洗面所」(38.2%)、「家族等との面会室」(31.9%)、「食事室」(70.9%)、「休憩室」(62.4%)は「同時に共同で使用」を望む割合が高い。

17. グループホームでの交流について思うこと

～ “交流は本人の意思を尊重してほしい” と考える割合が半数近くにのぼる ～

グループホームの入居者全員で食事をする事、全員参加のイベントなどで交流することについての問いに対しては、「交流の内容について、その都度本人の意思を確認してほしい」が 47.0% と半数を占め最も多い。

家族負担度別に見ると、「負担あり」層 (50.6%)、グループホーム検討度別に見ると、「入居現在検討者」(50.4%) では「交流の内容について、その都度本人の意思を確認してほしい」が他層に比べて高い。

18. グループホームやアンケートに答えた感想

「グループホームに対する期待や現在入居者の満足」が 66 人 (回答者 315 人中 21%)、「将来の入居に向けての検討や意識が高まった」(59 人、同 18.7%) が上位にあがる一方で、「よくわからない、もっと知りたい」(54 人、同 17.1%) 「グループホームに対する不安や懸念」(41 人、同 13.0%) がこれに次いでおり、期待と不安が入り混じった回答が多く見られる。

「家族での生活支援に負担を抱える」家族が全体の 3 割を超えている。この「負担あり」層の 34% はグループホームでの共同生活を希望しており、グループホームのニーズは高い。さらに、家族支援が困難になった将来についてはグループホーム希望率が 6 割近くにのぼり、潜在需要の高さがうかがえる。一方で、現在具体的に入居を考えている割合は「負担あり」層でも 2 割弱と、潜在需要と顕在需要の間にギャップがある。

グループホーム入居をためらう要因としては、情報不足による、検討材料の乏しさやグループホームに対する様々な不安や懸念が主となっている。主な不安や懸念としては「入居に伴う費用負担」「サービス内容についての不安」「立地条件(自宅や職場に近い場所にあるか)」「本人が共同生活ができるかへの不安」「空きがなく、入居できない」があがる。

グループホームでのサポートとして「金銭管理」「健康管理」「声掛けや会話による人間関係のフォローやメンタル管理」へのニーズが高く見られるが、これは、家族支援における負担要因と傾向が一致しており、家族で限界を感じる日常支援について「専門的なサポート」を求めていることがうかがえる。

《ご本人アンケート》

1. 困った時に相談するところ

～ グループホーム入居未経験者のうち、3割弱が「相談先がない」と回答 ～

困った時に相談するところについて、グループホーム入居者・経験者は、「障害者就業・生活支援センター」(34.3%)、「GH職員、世話人」(21.2%)、「会社、上司、同僚、AB事業所、作業所」(13.7%)をあげる割合が高い。一方、入居未経験者は、「障害者就業・生活支援センター」(29.0%)と並んで「相談するところはない、相談したことがない」が28.9%と多く、全般的に入居経験者に比べて低率である。

2. 将来の生活について不安に思うこと

～ 利用経験の有無にかかわらず「自分ひとりで生活すること」への不安が強い ～

将来の生活について不安に思うことについて、「自分ひとりで生活していくこと」がグループホーム入居者・経験者(44.4%)、未経験者(54.9%)ともに最も高く、「家族がいなくなる(家族が病気になる、年をとる)」がこれに次いでいる(経験者24.5%、未経験者27.2%)。

3. グループホームに対する満足度と良い点・悪い点 <入居者・経験者>

～ 居住満足度は76.5%と高い。満足する点として、部屋の住みやすさ、食事、対人関係についての項目が上位にあがる ～

「グループホームについての感想」として、「とても住みやすい」(37.3%)、「まあ住みやすい」(39.2%)を合算した満足度は76.5%と高い水準にある。

グループホームに住んでいて良いと思う点としては、「自分の部屋が住みやすい」(52.6%)、「職員や世話人の人がやさしい」(50.3%)、「ご飯がおいしい」(47.4%)、「仲の良い人がいる」(46.7%)が上位にあがっている。グループホームに住んでいて良くないと思うこととしては、「一緒に住んでいる人が嫌い」(17.3%)、「自分の自由にできないことが多い」(17.0%)、「家族がいなくて寂しい」(14.7%)が上位にあがっている。

4. グループホームに対する認知と非入居理由 <入居未経験者>

～ グループホームの認知率は10%。“家族と一緒にいたい”が非利用理由 ～

グループホームについて、「よく知っている」割合は10%と低く、「名前を聞いたことがある」が55.5%と半数を超えている。グループホームに住んでいない理由としては、「家族と一緒に居たいから」(62.2%)が中心となっているが、「グループホームのことを知らないから」(31.6%)をあげる割合も3割以上と高い。

5. 手伝ってもらっていること、手伝って欲しいこと

～入居者・経験者に比べて未入居者は「家事や送迎は支援してほしい」「お金の管理は自分でやりたい」という傾向が強い～

入居者・経験者の中で、自立率(全部自分でやっている)が高いのは、「洗濯物」(82.4%)、「掃除や片付け」(65.7%)「送り迎え」(64.7%)であり、一方、被支援率(全部+できない所だけ)が高いのは、

「病院への付き添い、銀行・役所での手続き」(79.5%)、「お金の管理」(69.9%)である。

一方、入居未経験者の自立希望率(全部自分がやりたい)が高いのは、「送り迎え」(48.0%)、「洗濯物」(41.6%)、「お金の管理」(39.3%)の順である。

自立度について、入居者・経験者の実態と未入居者の希望を比較すると、「掃除や片付け」(希望－実態＝26.4%)、「洗濯物」(同 38.9%)、「送り迎え」(同 13.3%)については、未経験者希望率の方が“全部または一部手伝ってほしい”割合が高い。一方で、「お金の管理」については未経験者の自立希望率が(39.3%)が入居者・経験者の実態(29.1%)を上回っている。

6. 専用部分と共用部分について

～ 未経験者は浴室、トイレの専用を希望する割合が高い ～

専用部分、共用部分の使い分けについて、「自分専用で使いたい」希望率が高いのは、「家族などとの面会室」(入居者・経験者 39.9%、未経験者 43.0%)である。

未経験者は「お風呂」「トイレ」についての専用希望が経験者に比べて高い。

7. グループホーム内の生活や相談について

約束事やルールを守って生活することについての意識として、入居者・経験者は「みんなで気持ち良く生活するためにルールは必要だと思う」(55.6%)、「決められた約束やルールは全部守りたい」(46.4%)、「自分に合った約束やルールを職員と相談しながら決めたい」(45.1%)と考える割合が高く、未経験者は「みんなで気持ちよく生活するためにルールは必要だと思う」(55.3%)、「自分に合った約束やルールを職員と相談しながら決めたい」(50.5%)、「ひとつひとつみんなで話し合っただけでルールを決めたい」(38.4%)と考える割合が高い。仕事での悩みや困っていることがあった時について、現在利用者、利用経験者は「グループホームの職員に話を聞いて欲しい」(52.6%)と考える割合が高く、未経験者は「家族に話を聞いて欲しい」(47.9%)と考える割合が高い。

8. グループホームについての感想及び質問に答えた感想

《入居者・経験者》

「グループホームへの期待や満足」(48人、48.5%)が「不満」(25人、25.3%)より多い。

《入居未経験者》

「興味を持った、意識が高まった」(53人、16.6%)「グループホームへの期待や満足」(49人、15.4%)と並んで「むずかしい、わからない」(50人、15.7%)「利用したくない」(43人、13.5%)「グループホームに対する不安や懸念」(31人、9.7%)も多くあがっている。

入居未経験者は入居者・経験者に比べて日常的な相談相手に乏しく、将来的な孤立に対する不安が大きい一方で、家族同居への希望が強い。背景には「グループホームという共同生活」に対する認知理解が低く、自由回答に見られるように「むずかしそう」「不安や懸念」「利用したくない」という見方も強いことも一因として考えられる。

グループホームでのサポートには、「家事は手伝ってほしい、お金は自分の自由にしたい」という意向が見られており、「金銭管理」を強く望む家族との間で意識のギャップも見られる。